

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600594		
法人名	医療法人社団栄仁会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム さるびあ【東棟】		
所在地	大分県臼杵市野津町大字宮原1181番地		
自己評価作成日	平成28年10月12日	評価結果市町村受理日	平成29年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成29年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・認知症悪化予防への取り組み ・身体機能の継続した維持支援 ・地域交流(買い物、散髪、地域の敬老会、お祭り、ドライブ、外食、子どもたちとの交流等) ・家族交流 ・外泊、外出の自由 ・役割活動にて生き甲斐作り ・ホーム内外での活動 ・充実した医療支援
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人との連携が密に取れ、医療支援も充実している。 職員の資質向上に向けた研修により利用者の尊厳が守られている。 家族との交流も密で自宅の延長として過ごせる雰囲気作りをしている。 運営推進会議には地域の方や消防等参加者も多く、毎回テーマ毎の話で充実している。 記録が詳細で一目瞭然である。 地域交流も盛んで恵まれている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員手作りの5つの理念を掲げ利用者の「一人一人を大切に安心と生きがいのある暮らし」への実践へ繋げている。	理念を職員で作り、日々意識しながら実践に繋げる努力をしている。各々が理念を携帯し、ホーム内にも掲げられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の清掃活動に参加したり、商工会の協力依頼や地域公民館行事にも積極的に参加している	地区の行事に積極的に参加し、地域との交流も年々絆が強まり、期待されている。職員も利用者もともに行事に参加し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	臼杵市や地域での認知症の対応や予防等の活動へ参加することで啓発活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回運営推進会議を行い、毎回さるびあの活動報告を行い意見やアドバイスを頂いている。外部評価については事前事後の報告を行っている。推進委員の協力に地域交流が増した。	2か月に1回開催され、外部参加者が協力的である。参加者も多く、栄養士が毎回おやつ作りをしてくれ地域交流に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回の運営推進会議に参加頂きさるびあの活動報告に意見アドバイスを頂いている。また、相談事等について連絡することですぐに応じて頂いている。	運営推進会議で市の広報を伝えてくれるなど情報の連携が取れている。担当が決まっておりアドバイスや協力を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言の理念を掲げホーム内全館に鍵を掛けることなく、Dr参加の研修を行ったりと、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	玄関はいつも開放され、センサーをつけず職員が常に気配り目配りに努めている。身体拘束をしないケアについて内部研修を行い、実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	Dr参加にてホーム内での研修を行ったり、朝夕のミーティング時に入居者の状況変化の報告を行ったり、入浴時の観察等職員が見守る体制作りを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市での研修会に参加したり、ご家族の要請にて入居者が機能低下なく継続して文字が書けるようケア支援を行ったりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約書を読み上げ十分な説明を行っている。また、改定等においては文書作成来訪頂き説明を十分に行い納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に一回さるびあの活動報告を文書で送っている。又、面会時に必ず近況報告や意見を聞く機会を設け状況に応じケアプランへ反映するようにしている。	面会時の会話の中で要望を聞いたり、家族との電話連絡の機会に意見を聞いている。推進会議に合わせ年2回交流会を開き、意見が反映出来る様に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回のカンファレンスにDr(経営者)に参加頂き、職員の意見を聞いて頂くことで、業務の内容等についても理解頂いている。また、朝夕のミーティングにて意見交換する場面を作っている。	月1回職員カンファレンスを行っている。経営者でもあるドクターにケアの現状を伝え物品購入の要望などミーティングに出た意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回懇親会をしていただき、個別に意見等を聞く機会を設けていただいている、職場での資格取得や研修参加には積極的な支援を行って来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修の実施や、個人の状況に応じた外部研修への参加支援を行っている。研修後は研修内容や研修成果等発表してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県認知症グループホーム協会に入会し研修の機会を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に家族や本人と面会し、現状の困りごとや不安等を聞き、ホーム内での日常生活や日々の取組等の説明を行うことで安心頂くよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談し、ご本人の様子や状況を尋ねケアプランに反映している。入居直後は職員一丸となり集中ケアを行い別紙記録ノートにて状況の把握を行い不安のないよう支援し面会時状況変化を報告する等の配慮を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要状況に応じ、共に立ち合い居宅や他の居宅への相談や協力を頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個人の状況に応じ、日常生活の中で洗濯物干し、料理作り、下膳、掃除等の出来ることの役割活動に参加頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に応じ本人の要望にて面会をお願いしたり病院受診や定期的な外泊や外出等をして頂いたり、状況変化時に連絡することですぐに応じて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の敬老会に参加したり、買い物、散髪へ出かけたり、散髪屋さんからは終了時に連絡を頂いたり馴染みの関係への支援を行っている。また知人の面会も積極的に受け入れている。	馴染みの美容室やスーパーに出掛けたり、以前勤めていた職場の方が訪ねてきてくれたりと個別での関係継続がある。地域の敬老会にも毎年招待され参加し交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活状況の中で友人となる人は固定される。その為共に関わり合えるよう座位場所への配慮をしたり趣味活動へは共に参加できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の後の家族の電話への対応や、入院後の面会等行うことで、家族・本人の精神面への配慮に添うことができると考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの強化にて本人の思いを把握、散歩や野外活動・ドライブ・買い物・散髪等の活動参加を支援している。	一人ひとりの思いを把握し、毎日の日課でタオルたたみやテーブル拭きをする等、個々の思いを大事にし、職員間で共有しながら反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・本人の意見を基に、入居時「はじめの一步」シートを作り職員の共有資料としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人のできる力を活かし、テーブル拭き、食器拭き、お絞たたみ、洗濯物干し、洗濯物たたみ等へ積極的に参加頂いている。また歩行能力の現状維持支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝夕のミーティング時に変化状況や毎月Drを交え職員全員参加のカンファレンスを行っている。面会時等にもご家族の意見を聞き状況に応じプランへ反映している。	3か月毎に計画を見直し、カンファレンスでは他職種の意見も取り入れながら職員全員で状況を把握し、また家族の意見も聞きケアプランに活かしている。受診ノートの記録も詳細で職員間での共有も出来ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケアプランに沿ったケース記録や食事、排泄、水分摂取、体重の変動等の記録を行うと共に状況変化時には更に記録を詳細に行い行動心理面での分析を行いケアの方向性を見極めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時常に家族と共に付き添って必要状況の情報提供を行っている。又、入院後も交互に職員が面会に行く等の対応をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員の方のご協力もあり、地域の敬老にご招待を受けたり、野津児童クラブの子ども達との交流や、商工会の催しごとへの参加等の機会が増している。美容師さんの協力にて二か月に一回ボランティアに来てくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へ月二回の定期受診や専門医への受診時の状況提供等や他必要受診時家族と共に付き添う等の支援を積極的に行っている。	24時間受診対応が出来る体制がある。専門医は継続した病院を利用し情報の共有も出来、家族にもその都度状況を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況変化に応じて適時Nsに報告することや週3回訪問にて身体状況や精神状況の変化を報告することで速やかに医療支援が受けられる連携体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必ず職員が付き添い情報提供を行いDrよりの説明を聞くようにしている。又、退院時も家族と共に付き添い状況把握に努めホームでの生活が安定して継続できるよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時ホームの意向を伝えているが、必要時家族とDrを交え話し合い、家族・本人の意見を反映できるよう支援している。Dr協力にてターミナルケアの受け入れに取り組んでいる。	家族とは事前にカンファレンスを行い、意見を反映出来る様に説明している。ターミナルの受け入れ連携も取れている。往診もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応等に添った研修をおこなったり資料等の配布を行っているが、最近の災害報道を受け不安との意見もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市の消防署、地域消防団のご協力を頂き年二回防災訓練を実施している。夜間の火災を想定した防災訓練を全職員で行った。	年2回夜間想定も含めた訓練があり、消防団長が推進会議の委員で意見を出したり説明をして支援してくれる。助言にもとづき地下に防火水槽を設置した。備蓄もあり、倒木による災害訓練もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で援助の必要な方にさりげなく声掛けするよう配慮したり、ご本人の意思を尊重するような支援をするよう研修会等を行いながらスタッフの意識改革を行い実践へ繋げている。	人格の尊重に気を配り対応している。本人がしてほしくないこと等を出してもらい対策を検討し実践に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や散髪等の希望に応じた支援を行っている。また、食事等本人の嗜好要求に添った食事の提供を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人のできる力に沿っての役割活動への参加を支援している。一日何もしない生活ではなく役割に参加することで生きがいとなっている。又意見を尊重し外出する機会を多く取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起床時、着る服の希望に添ったり、季節の衣服のアドバイスをしたり、馴染みの美容師さんへ出かけたり等の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共に食事づくりへ参加し、季節の野菜等に話が弾んだり、食後の下膳や食器拭き・テーブル拭き・おしぼりたたみ等への参加をされている。	手作りにこだわり地元の食材等を使用し、食欲が出る様な切り方盛り方を工夫し雰囲気作りにも気を遣っている。外食は年に2回程行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の摂取カロリーを把握し、それぞれに応じた対応を行い摂取量の記録を行っている。水分管理の必要な方は摂取量を計測し一日の水分量の管理・把握を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き支援や義歯を週2回消毒したりと口腔内の衛生管理を行っている。又、必要状況に応じ歯科受診等の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄記録を付け、それぞれに応じた排泄パターンを把握している。トイレでの排泄を基本と考え排尿感覚のない方でもトイレでの排泄支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、声掛けし自立支援に繋げている。トイレ排泄を基本とし、24時間のチェック表で失敗しない様に気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、個人の排便状況を把握している。食事摂取の把握や十分な水分摂取をして頂いたり、朝の味噌汁の具にカボチャ・さつまいも等使用することの工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば夜間入浴の対応や夏場のシャワー浴等の支援を行なっている。	月・水・金の週3回入浴だが、希望に沿った支援を心掛けている。風呂が広いため友達同士で入る事もあり、歌ったり楽しめるような支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中趣味活動やコミュニケーション・レクリエーション等へ参加することで精神的活性を図り夜間の良眠へ繋げている。活動の間には十分な休息を取られている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の受診ノートや処方箋の記録ノートを作成し、薬の変更時にはスタッフ皆がわかるようにしている。又、追加薬等服用時には服用後の状況変化の観察等皆で行いDrへ報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の状況に応じ日常生活における役割活動への支援を行っている。又、食事に出かけたり、季節に応じドライブや行事等を行い、日常の中で出来るだけ有意義に楽しく過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族対応にての外出・外泊は自由であり、地域の敬老会やお祭りに参加したり、ドライブや食事へ出かけたり等出掛ける機会を多く設けている。又、天気の良い日は外でグラウンドゴルフや日光浴を行いお茶を飲んだりと楽しんでいただいている。	外出や外泊は自由に出来る。家族の要望にも対応。時期によって季節の行事に職員が法人の大型バスにて外出支援出来ている。庭が広く、散歩も施設周囲自由出来る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の状況に応じ金銭管理の出来る方はお金を持ち買い物に出かけたり、又、ほしい物の要求があればスタッフが対応し、おつりと領収書を渡し確認を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話要求の対応や取次等行うとともに家族へ暑中見舞いや年賀状作りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや居室を季節ごとに飾りつけたり、外にゴーヤを植え成長を楽しまれたり、居室に家族の写真を飾ったり、食卓に季節の花を飾ったり等落ちつける雰囲気作りへ配慮している。	自宅の延長として過ごせる空間作りをしている。各部屋の前には乾燥を防ぐため湿ったタオルがかけられ、室温や換気にも気配りされている。天窓があり明るく、広縁にてゆっくり過ごせるスペースがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内にソファを配置しそれぞれ気の合った方が過ごせる空間への配慮を行っている。それぞれに日々座位する場所は決まっており、そのことがまた、日々の安心へと繋がっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に家族の写真を飾ったり、誕生会の写真を飾ったり、療法参加時の作品を飾ったりすることで、できるだけ殺風景にならない様工夫している。	家庭に居る様な雰囲気作りがされており、誕生会の写真や馴染みのものを活かす空間があり本人が落ち着ける工夫がされている。人と関わる事を大切に気配りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ローカを広く危険なく歩きやすいよう環境を整えている。見当識等ある方の為、トイレに日の丸を掲げわかりやすいよう工夫支援を行っている。又、機能低下することなく目的地へいける様その日の状況に応じ歩行器等の準備を行っている。		